学校番号	1006

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ａ	単位数	１単位	年次	１年次
使用教科書	よくわかる新編数学Ａ（第一学習社）						
副教材等	新版　ネオパル数学Ａ　教科傍用（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、中学校までの基本的な計算問題と数学Ａの「場合の数」について扱います。問題を解くときは、先生の説明を待って聞いてわかったという受け身の気持ちにならず、自ら考え周囲と協力して問題解決に取り組んでいってください。
・授業用ノートを必ず作りましょう。ノートには、先生からの授業の説明と自分が解いた証拠となる解答までの道筋をすべて記入してください。その際、自分が振り返って見やすいものを心がけよう。
・計算手順や数式の組み立てから最終的な答えを導くまでの方法をひとつひとつ身につけましょう。理解できなかったときは、あきらめずに先生や友人に聞いてください。
・副教材の問題集やプリントなどは答えを写すのでなく、自分の力で解くようにしてください。わからない場合は、授業用ノートを見て調べて考えて自分の答えを出してみよう。

2　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通じて、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することをめざす。
（１）数学の計算法則や場合の数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に理解、表現する技能を身につける。
（２）日本語で表される具体的な事象からイメージし数式に変換して表現する力とその数式を処理する力を養う。
（３）数学のよさや美しさを認識し数学を活用しようとする態度と、さまざまな問題解決の過程を振り返り考察する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	四則演算、分数の計算、文字式の計算、方程式、因数分解、根号を含む計算などの計算方法を正確に身につけている。場合の数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化して解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	日本語で表される具体的な事象から数式に置き換え、数式を適切に正確に処理できる。樹形図をみやすく描き、順列や組み合わせなどの新たな数学の記号を正しく利用できる。事象から得られる結果から考察する力や判断する力、社会の事象などから設定された問題について、適切な手法を選択して問題を解決できる。	数学的活動を通じて数学のよさや美しさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深める態度、その振り返りを評価・改善したりしようとする態度や創造性の素地を高める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	学び直し	正負の数 分数の計算	a:計算の順序が理解でき、正確な答えが導ける。 b:順序通りに四則演算ができる。通分の有無について判断でき計算ができる。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	
		文字式の計算	a:加減乗除の計算方法を理解し同類項を整理し正確に計算ができる。 b:学習した方法を用いて目的に応じて式変形できる。 c:計算の間違えやすい箇所を分析できる。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	提出ノート 観察 振り返りシート
		一次方程式 連立方程式	a: 等式の性質を利用して方程式の解を求めることができる。 b: 加減法、代入法など、問題に応じて適切な手法で解くことができる。 c:方程式の解き方について、さまざまな方法を知ろうとする。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	提出ノート 観察 振り返りシート
		因数分解	a:正確に計算できる。 b:因数分解公式のどのパターンであるか判断できる。 c:分配法則に関心をもち、展開の逆であることを意識しながら取り組むことができる。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	提出ノート 観察 振り返りシート
		根号を含む計算	a: 根号の計算方法を理解できる。有理化ができる。 b:文字式の計算と同じ要領で計算できる。美しい形で根号を表現できる。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	
		二次方程式	a:実数解をもつ二次方程式を解くことができる。 b:解が 2 つある方程式について知ることができる。利用するべき場面で解の公式を利用できる。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	

2学期	場合の数	集合･集合の要素の個数	a:集合の表現方法を理解して要素を正しく示すことができる。樹形図、和の法則、積の法則を利用して答えを導くことができる。 b:共通部分と和集合について理解でき、表現できる。日本語や数式からベン図で表すことができる。要素の個数を正確に求めることができる。 c:ド･モルガンの法則について正しいことを図で表そうとする。身近な事象を数学的事象に置き換えて問題解決できる。	確認テスト 定期考査	提出ノート 問題集への取り組み 定期考査	提出ノート 観察 レポート 振り返りシート
	場合の数･確率	場合の数 順列･重複順列･円順列 組合せ 事象と確率 確率の基本性質	a:、ＰとＣの計算を利用して答えを導くことができる。ＰとＣの計算ができる。確率の計算ができる。 b:問題の文章から樹形図や表などを用いて視覚化し、問題を適切に解くことができる。 c: 円順列と重複順列の計算方法に興味をもち、従来の順列の問題と区別化して問題を解くことができる。一般的なＰとＣの公式を表現しようとする。順列と組合せの違いを言葉で説明できる。	確認テスト 定期考査	提出ノート 問題集への取り組み 定期考査	提出ノート 観察 レポート 振り返りシート
3学期	確率	余事象の確率 独立な試行の確率 条件つき確率 期待値	a:場合の数を求めることができ、確率の計算ができる 期待値を求めることができる。 b:問題の文章から数式化し、問題を適切に解くことができる。確率の意味を理解した上で、確率の大小を判断できる。 c:確率の性質を理解しようと主体的に取り組むことができる。	確認テスト 定期考査	提出ノート 問題集への取り組み 定期考査	提出ノート 観察 レポート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度